

新大田市立病院建設 基本構想 【概要版】

I. 大田市立病院の存在意義

大田市立病院は、急性期医療を中心とした医療を提供する医療機関として、また、患者数が多く、死亡率の高い「がん」、「糖尿病」などの疾病、救急医療や周産期医療などの政策医療を担う自治体病院として、この圏域の医療の中心的役割を担っており、住民の安全・安心を確保するためにも引き続き、大田二次医療圏の中核病院として、その責務と役割を担うことが求められます。

II. 大田市立病院を取り巻く現状と課題

1. 現状と課題

- 1) 圏域で期待される医療サービス
- 2) 高齢化社会の進行
- 3) 限られた医療資源の中での病病連携、病診連携への期待
- 4) 医師不足による診療機能の低下
- 5) 厳しい経営状況
- 6) 機動的、弾力的な経営が難しい運営形態

2. 施設の老朽化等による建替えの必要性

◇大部分の施設は新耐震基準（昭和56年）以前の建物であり、早急な対策が必要

- ・施設の老朽化
- ・狭隘な施設
- ・機能的でない施設配置

患者さんを含めた市民に安全安心な医療を提供していくため、また、医療スタッフが働きやすい医療環境を整備するため、施設建替えによる抜本的な見直しを行う必要がある。

III. 新病院の理念、基本方針

1. 理念

現病院の精神を継承し、また、住民に信頼される病院づくりに向け、新病院の理念を次のとおりとします。

「和」と「誠意」と「奉仕」

和：職員相互の調和と協調により、安らぎと安心の医療を提供します。

誠意：より質の高い、安全な医療が提供できるよう努めます。

奉仕：常に患者さんに寄り添い、患者さんから信頼される病院を目指します。

2. 基本方針

今後の病院運営の基本となる責務と役割を、「大田二次医療圏の中核病院としての責務の遂行」と「保健・福祉との連携による予防から介護までの一体的な医療サービスの提供」とした上で、基本方針を次のとおり定めます

- 1) 大田二次医療圏の中核病院として、5疾病5事業を中心とした急性期医療を提供します。
- 2) 病病・病診連携により、圏域に必要な医療提供に努めます。
- 3) 地域で必要度の高い疾病に対し、保健・福祉と連携した予防から介護までの一体的医療サービスを提供します。
- 4) 訪問看護等を通して在宅医療や地域医療の向上に寄与します。
- 5) 医療水準の向上と安全な医療環境整備に努めます。
- 6) 職員相互の協調によるチーム医療の実践と、よき医療人としての人材育成に努めます。

IV. 新病院の診療機能、診療科目、病棟構成、病床数

1. 主要な診療機能

◇急性期医療の提供

◇5疾病5事業等への対応

◇地域で必要度の高い疾病への対応

※5疾病：「がん」、「脳卒中」、「急性心筋梗塞」、「糖尿病」、「精神疾患」

※5事業等：「小児医療」、「周産期医療」、「救急医療」、「災害医療」、「地域医療」、「在宅医療」

2. 診療科目と医師配置

1) 診療科 20診療科

内科、神経内科、呼吸器内科、消化器(内)科、循環器(内)科、精神科、小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、放射線科、麻酔科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科

2) 医師配置

○整形外科の常勤化を目指します。

○内科、消化器内科、外科などの医師の充実を図り30人程度の医師の確保を目指します。

3. 病棟構成及び病床数

「大田二次医療圏の中核病院としての機能が発揮できる病院規模」であることを前提とし、病床数を設定します。また、新たに回復期リハビリテーション病棟を設置します。

病棟構成		病床数設定の考え方	病床数	現行病床数
一般病床		常勤医 28 人程度配置、入院患者 180 人見込み	195 床	280 床
療養病床	回復期リハ	常勤医 1 人配置、入院患者 35 人見込み	40 床	0 床
	医療型	常勤医 1 人配置、入院患者 40~45 人見込み	45 床	28 床
	介護型			27 床
感染症病床		現行のとおりに 4 床を確保	4 床	4 床
合計			284 床	339 床

V. 新病院の建設場所、概算事業費、整備スケジュール

1. 新病院の建設場所

新大田市立病院の建設場所については、現地建替えとします。

2. 概算事業費

項目	内容	概算金額
用地造成	測量調査、用地取得、設計費、造成工事等	4億円
建設工事	病院本体、設計監理、外構、解体、宿舎、移転費等	83億円
医療機器整備	医療機器	25億円
合計		112億円

※概算事業費については、現時点での想定であり確定したものではありません。

3. 整備スケジュール

平成25年度～平成29年度完成予定

年度	内容
平成25年度	基本設計（造成、建物）、実施設計（造成、建物）
平成26年度	実施設計（造成、建物）、造成工事
平成27年度	造成工事、病院本体工事
平成28年度	病院本体工事
平成29年度	外構、解体工事、宿舎工事、新館改修

※今後の整備状況によっては、スケジュールに変更があります。

VI. 新病院の施設整備方針

1. 患者・来院者など、利用者中心の施設整備

- ・適切な機能配置と案内表示
- ・個室の増加、病室スペースの拡張
- ・市民が気軽に集えるスペースの確保

2. 機能的で働きやすい施設整備

- ・効率的で働きやすい動線の確保
- ・カンファレンスルームの充実など

3. 環境の変化や多様化するニーズに柔軟に対応できる施設整備

- ・将来の医療環境の変化に柔軟に対応可能な施設

4. 安全安心な施設整備

- ・災害時にも機能を維持できる施設
- ・院内感染防止、医療安全対策の推進

5. 経済性を考慮した施設整備

- ・経済性・耐久性に優れた部材や機器等の調達
- ・ライフサイクルコストの軽減

6. 医療提供情報等の共有化に向けた環境整備

- ・ITを活用した医療情報の共有化

7. 人材教育・研修に積極的に取り組む施設整備

- ・教育・研究・研修の場を整備
- ・医療従事者の育成

VII. 新病院の経営推計

1. 経営収支の考え方

最終目標として、単年度経常収支の黒字化を目指すこととするが、新病院建設に係る減価償却が高水準で推移することから、当面、単年度資金収支の均衡により、安定的な運転資金の確保を目指します。

2. 経営推計

1) 収益的収支

(単位：百万円)

項目	現 病 院		新 病 院	
	H23 (実績)	H28 (見込)	H30 (見込)	(参考)概ね 開院7年目
医業収益	2,897	4,105	4,820	4,834
医業外収益 他	338	445	510	493
収入合計	3,234	4,550	5,331	5,328
医業費用	3,783	4,463	5,265	4,920
医業外費用 他	122	306	439	407
支出合計	3,905	4,769	5,704	5,327
経常収支	▲671	▲218	▲372	2
(参考) 減価償却前収支 ①	▲324	48	278	271

2) 資本的収支

項目	H23	H28	H30	開院後7年目
資本的収益	391	6,201	263	404
資本的支出	595	6,329	470	551
差引額 ②	▲204	▲127	▲207	▲147

3) 単年度資金収支

項目	H23	H28	H30	開院後7年目
財源過不足 (①+②)	▲528	▲79	71	124

3. 医師数及び病床稼働率の目標

項目	H23 実績	H28 目標	H30 目標	開院後7年目
医師数	23人	28人	30人	30人
病床稼働率	47%	65%	90%	90%
(参考)病床数を新病院の 284床に換算した場合	54%	77%		

VIII. 運営形態

◇市立市営による病院運営

◇早期に地方公営企業法に基づく一部適用から全部適用に移行

IX. 保健・医療・福祉の連携拠点施設の整備

◇保健・医療・福祉の連携拠点施設として、国からの経営委譲時に建設した新館を有効活用する

◇平成26年度末までに整備方針を定める